



木々の葉の色が変わり始め、秋の訪れも目に見えて分かるようになってきました。

9月5日(月)から9月16日(金)までの10日間、高等部3年生を対象に産業現場等における実習を実施しました。卒業後の進路を決める上でとても重要な実習となりました。これまでの実習で、自分の職業の適性或職場の雰囲気になじむことができるように一つ一つ力を積み重ねてきました。これらの実習体験を一時の社会経験とするのではなく、卒業後の自分の目標をより具体的にイメージすることができる機会となるよう指導、支援を行ってまいります。今後とも保護者の皆様のご協力をよろしくお願いいたします。

進路だより3号では、1学期に、全校生を対象に実施した「進路希望調査」の中で寄せられた保護者の皆さんからの質問に答えるコーナーを設けました。ぜひご一読ください。

## 【質問1】卒業後の進路が不安です。どの福祉事業所が自分の子供に合っているのかわかりません。

高等部卒業後の進路決定は、保護者のみなさんにとって大きな関心事であり、少しでも正確で詳しい情報を集めたいと考えておられることと思います。しかし興味はもっていながらも進路希望調査の統計によると小学部での「施設や事業所への見学状況」は、88人中49人と半数以上の方が「一度も見学をしたことがない」というのが現状です。

高等部卒業後の進路先は複数あります。小学部から高等部までを過ごす中で、お子さん自身、保護者・学校・関係機関などが連携しながら、より良い進路先を見つけていけるように小学部の段階から様々な進路先について情報を集めたり、見学したりして卒業後の生活をイメージしていく取り組みが重要です。

その中でも事業所の選択はとても大きなポイントとなります。例えば、同じ生活介護事業所であっても、施設によって医療的ケアの有無、送迎の有無、活動内容や作業内容、一日の流れ、雰囲気等が異なります。自分のお子さんに合った進路先を選択する上で大切なことは、ご自身の目で確かめ、雰囲気を感じ取り、職員の方から直接お話を聞くことです。また実際に施設を見学することで、高等部卒業後の生活のイメージや、そこで働くお子さんの姿がイメージできれば、そこから必要な力を逆算して積み上げて行く支援も考えられると思います。そのために早めの時期からの施設見学をお勧めします。

「進路の手引き」をご覧いただき、見学等をしてみたいと思われた施設がありましたら、直接先方にご連絡していただき、日程等の調整をお願いします。この機会に一度、福祉事業所・施設を覗いてみてはいかがでしょうか。

## 【質問2】言葉で伝えることが難しいので、コミュニケーションがとれるのか心配です。周囲のみなさんと一緒に仲良く、そしてしっかり働けるかが心配です。

人とのかわり方に関する心配が複数聞かれました。実際に福祉サービス事務所や施設等で求められる力としては、「自分の名前を呼ばれたら返事をする」「身近な人に簡単な挨拶をする」「ありがとう、ごめんなさいが言える」などが求められます。

これらの力は人間関係を維持し、良くしていく基本となります。返事や挨拶は音声



言語によるものだけではなく、身振りやカードなど個人に応じて様々な方法があります。ご家庭でも繰り返し練習していくことで、少しずつでも向上していくことが期待できます。今日からでも始められますので、意識しながら生活してみてください。

### 【質問3】企業がどんな人を求めているのかを知りたい。

仕事が多少ゆっくりでも、誰に対しても明るく笑顔で挨拶することができたり、休まずに通うことができたりすれば親しまれる人もいます。また、コミュニケーションが苦手でも、毎日休まずに、与えられた仕事を正確に行うことができれば十分だと言ってくれる企業もあります。職種によって求められる力には違いがあると思いますが、共通して多く聞かれるのは、「挨拶ができる人」「休まない人」「気持ちの浮き沈みがあまりない人」「素直に指示を聞くことができる人」などです。まずは、お子さん自身が、自分ができることやできないこと、苦手なことが何かを理解していることが大切です。そして、苦手なことができるようになるために、努力することも大切ですが、努力してもなかなか難しい場合には、できている部分を伸ばしていくことが大切だと思います。



### 【質問4】就職、就労した後の様子を教えてください。

高等部卒業後、学校では、2年間「アフターケア」を行っています。就労先からの相談には、随時対応しています。また、年に2回程度、高等部教員が就労先を訪問し、仕事の様子を見学したり、就労先の方と話をしたりしています。本人と話をして解決できる課題は、その場で対応しますが、その場での解決が難しい場合には、保護者や関連機関と連携して、迅速に対応するようにしています。

今年度のアフターケアで実際にあった例をご紹介します。

#### 〈例1〉生活介護事業所

**課題**…給食をほとんど食べない。特に麺類の日は食べない。食べさせ方を実際に見せて教えてほしい。

**対応**…在学時の担任が実際に訪問し、実際の食べさせ方を見せたことで職員とも食べることができるようになった。また、卒業後、生活リズムが崩れ、通所する時間が遅れていることも食欲がない原因の一つであると考え、保護者に連絡し、できる限り決まった時間に通所していただくようお願いした。

#### 〈例2〉就労継続支援B型事業所

**課題**…特定の友達や指導員を叩くことが増えた。以前よりも仕事に集中することができていない。

**対応**…事業所と相談支援員と保護者で相談した。事業所で対応できる人員が少ないことや、仕事内容も本人の実態に合っていないと判断し、別な事業所へ移った。他の人を叩くことがなくなり、落ち着いて仕事を行うことができています。

#### 〈例3〉一般企業

**課題**…仕事に慣れてきて、指示を素直に聞くことができず、不機嫌な態度をとったり、仕事をごまかしたりすることがある。

**対応**…本人、店長、在学時の担任で話をし、行動の振り返りを行った。仕事への取り組み方や、感謝の気持ちをもつことの大切さについて話をした。1か月に1回程度、ジョブコーチやふろんていあ（会津障害者就業・生活支援センター）の担当者が巡回指導を行っており、現在は真面目に仕事に取り組むことができています。